

普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ
第11回会合 議事要旨 (案)

1 日時

平成25年5月31日(金) 16:00～17:00

2 場所

内閣府別館9階会議室

3 出席者(敬称略)

(主査)	小泉 力一	尚美学園大学大学院教授
(委員)	青田 哲	日本電信電話株式会社
	荒木 浩一	株式会社NTTドコモ
	石井 茂	独立行政法人情報処理推進機構
	伊藤 求	ニフティ株式会社
	井上 真由美	株式会社ミクシィ
	尾花 紀子	ネット教育アナリスト
	勝村 幸博	株式会社日経BP社
	川上 隆	学校法人岩崎学園
	小屋 晋吾	トレンドマイクロ株式会社
	佐竹 正範	ヤフー株式会社
	清水 啓一朗	ソフトバンクモバイル株式会社
	下村 正洋	株式会社ディアイティ
	杉浦 昌	日本電気株式会社
	高橋 正和	日本マイクロソフト株式会社
	中野 正康	グリー株式会社(千原委員代理)
	西本 逸郎	株式会社ラック
	藤本 浩司	株式会社電通
	前田 典彦	株式会社カスペルスキー
	武笠 貴史	KDDI株式会社
	村上 智	株式会社シマンテック
	本橋 裕次	マカフィ株式会社
	矢野 敏樹	グーグル株式会社
	吉田 正彦	一般財団法人マルチメディア振興センター
(事務局)	占部 浩一郎	内閣審議官
	泉 宏哉	内閣参事官
	近藤 玲子	企画調整官
	田平 有紀子	参事官補佐
	山梨 雅彦	参事官補佐

4 資料

資料1 普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ第10回合
議事要旨（案）

資料2-1 「サイバーセキュリティ戦略」（案）概要

資料2-2 「サイバーセキュリティ戦略」（案）

資料2-3 普及・啓発に関連する主な項目

資料3 情報セキュリティ月間「総括及び今後の課題」への対応について

資料4 「情報セキュリティ国際キャンペーン」について

資料5 情報セキュリティ普及・啓発発信メッセージについて

資料6 情報セキュリティサポーターの必要性和育成方法

資料7 平成25年度の年間活動計画（案）について

資料8 次回の開催日程

参考資料 普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ委員名簿

5 議事概要

- (1) 「サイバーセキュリティ戦略」（案）の概要について
事務局より資料2-1～2-3に沿って説明。
- (2) 情報セキュリティ月間「総括及び今後の課題」への対応について
事務局より資料3に沿って説明。
- (3) 「情報セキュリティ国際キャンペーン」について
事務局より資料4に沿って説明。
- (4) 情報セキュリティ普及・啓発発信メッセージについて
事務局より資料5に沿って説明。その後、委員による意見交換が行われた。
委員等からは以下のような意見が述べられた。

【資料に関して気付きの点等】

- 資料3について、省庁間連携と記載されているが、関係省庁はどのように政府一体となって連携していこうと考えているのか。省庁間の温度差のようなものは無いのか。
- 「サイバーセキュリティ戦略（案）」において、普及啓発に関する記述として資料2-3に政府一体としての取組が記載されていることは認識している。しかし、各省庁には各省庁の役割があるので、テーマを伝えながら各省庁と政府一体感を出だせればと考えている。あわせて、今年度から各府省庁連絡会議を実施することになっている。
- 発信メッセージ（案）について、スマート過ぎるし、引っかけがわからない。何を言おうとしているのか具体的に伝わらない。もう少しひねりを入れる必要があるのではないか。
- 発信メッセージ（案）について、キャッチフレーズや重点テーマなど多すぎるのではないか。もう少し減らすべきだと考える。

- キャッチフレーズのリスクを「知る」とか、情報を「守る」等は続けても良いと思うが、「知る」から不審なサイトやメールにアクセスしないというのはイメージしにくい。また、具体的なテーマとして「スマートフォンの情報セキュリティ対策」というのがあるが、我々企業は常日頃いろいろなリスクにさらされており、メールだけに特定されるわけではない。web・アカウント・ウイルスの検知等具体的に書いても良いのではないか。
- キャッチフレーズと重点テーマは個人と企業の2種類を準備すべきである。あまり具体的になりすぎることなく、なぜこの年度にこのキャッチフレーズや重点テーマなのかをはっきりと答えられるよう準備をしておく必要がある。
- キャッチフレーズの「知る」「守る」「続ける」というのを引き続き使用してもかまわないと思うが、「知る」については自分が関係していることと、自分が主役であるということを知ってもらう必要がある。また、「守る」についても友人や職場の人間を守るということを伝えることが重要である。
- 重点テーマの個人向けテーマとして「アプリは信頼できるサイトから。ウイルス対策も忘れずに」となっているが、キャッチフレーズに例えると、「知る」はどのようにして信頼できるサイトを見つけられるか、「守る」はセキュリティ対策を実施する、「続ける」は最新のウイルス対策を実施するということである。重要なのはユーザの立場に立ってわかりやすく普及させるとよいのではないか。
- 過去に調査を行ったセキュリティ事故の内容を見た場合、メッセージを出してそれに従って欲しいと依頼したとしても実際には見ていない場合がほとんどである。よって、重点テーマやキャッチフレーズはこのままだも良いが、実際の事故事例や危険性を理解していただいたうえで抽象化すればよいのではないか。
- 個人と企業に分かれている重点テーマについて、個人に対しては非常にわかりやすいが、企業に対しては経営者なのか従業員なのか、又は情報システム担当者なのか誰に向けて発信しているかがわからない。企業向けについてはしっかりと方向性を付けなければならない。
- 企業は耳を持っていないので、誰に向けて発信するかを工夫する必要がある。個人と企業で対応が変わってくるだろう。
- 7月の参議院選からネット選挙が解禁されるのに伴い、情報セキュリティの普及啓発の観点から、不審なサイトやメールにアクセスしないなどのメッセージが国民に届けられればプラスになると思う。
- 年間を通してのメッセージについて、2月だけではないというイメージのようなものがあるのか。具体的に説明していただきたい。
- 今まで2月の月間に特化してテーマのみ発信してきたが、情報セキュリティの普及啓発は2月だけにとどまらず、昨年も10月に国際キャンペーンを実施した。
未だ検討段階ではあるが、今後は年間を通じて統一テーマを発信していきたいと考えている。

- 資料5の7頁に示す今年度の情報セキュリティ発信メッセージについて、個人向け及び企業向けに相応しい具体的なテーマとして何かありますでしょうか。今すぐないようですので、後ほどメーリングリスト等で連絡を頂きたい。
 - 可能であればNISCとしてゆるキャラ又はマスコットがあると非常によい。京都府警では「ポリスマろん」という2等親キャラを作成したところ、イベントに行くと子供たちが寄ってくる。イメージキャラクタとあわせて、官民連携で情報セキュリティの啓発が出来ればよいと思う。
- (5) 「国民に近い距離で活動する団体等の育成」について
SPREADより資料6に沿って説明。
- (6) 「平成25年度の年間活動計画（案）」について
事務局より資料7に沿って説明。
- (7) 「今年度の活動スケジュール」について
事務局より資料8に沿って説明。
- 次回の第12回普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループは8月23日（金）16時から2時間で開催する。

-以 上-